

〈解答〉

- ① (1) エ
 (2) ① イ ② ア (完答)
 (3) 陸風
 (4) ① 季節風 ② ウ (完答)
 (5) 〔例〕 海水の表面から蒸発した水蒸気を大量に含むから。
 (6) ① シベリア ② 西高東低 (完答)

配点 各1点 6点満点

〈解説〉

- ① (1) 水はすべての物質の中でも極めて温度変化しにくい物質である。したがって、昼間に同じように日射を受けても、海面は地面と比べて暖まりにくい。また、夜間に日射がなくなっても、海面は地面と比べて冷めにくい。
- (2) 日射を受ける昼間は、地面の方が海面よりも温度が高くなるので、空気の膨張によって陸上の方が空気の密度（気圧）が低くなって上昇気流が生じる。その結果、気圧の高い海上から陸上に向かって空気が流れる。一方、日射がなくなる夜間は、海面の方が地面よりも温度が高くなるので、海上の方が空気の密度（気圧）が低くなって上昇気流が生じる。その結果、気圧の高い陸上から海上に向かって空気が流れる。
- (3) (2)の解説より、昼間は海上から陸上に向かって海風とよばれる風がふく。一方、夜間は陸上から海上に向かって陸風とよばれる風がふく。なお、海風と陸風のことを、まとめて海陸風という。
- (4) 1図の陸をユーラシア大陸、海を太平洋という広い範囲に置き換えて考えることができる。日射の強い夏の時期には、ユーラシア大陸の方が太平洋よりも温度が高くなるので、ユーラシア大陸の方が空気の密度が低くなって上昇気流が生じる。その結果、気圧の高い太平洋からユーラシア大陸に向かって南東の季節風（モンスーン）がふく。一方、日射の弱い冬の時期には、太平洋の方がユーラシア大陸よりも温度が高くなるので、太平洋の方が空気の密度が低くなって上昇気流が生じる。その結果、気圧の高いユーラシア大陸から太平洋に向かって北西の季節風がふく。
- (5) 冬の時期に勢力を強める、ユーラシア大陸上の高気圧によるシベリア気団の空気は寒冷で乾燥しているため、空気中には水蒸気はあまり含まれていない。しかし、ユーラシア大陸と日本列島の間にある日本海上を通過する間に、空気中には海水の表面から大量の水蒸気が供給される。その結果、水蒸気を含んだ空気によって、日本列島の中央山脈（山地）の地形に沿った上昇気流が日本海側で発生するため、日本海側には大雪が降ることが多くなる。
- (6) 日本の冬には、日本列島の西側のユーラシア大陸上にシベリア気団による高気圧が、東側の太平洋上に低気圧が位置するので、日本列島は等圧線が縦じま状になった西高東低の気圧配置になり、北西の季節風がふくことが多くなる。